

# 住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第30号 6月10日  
発行 住友化学・住化武田農薬  
お客様相談室 0570-058-669  
編集者 古津 昇  
発行責任者 原 正樹

## 目次

農家さん訪問記	p.1
やさしい農薬の知識 NO.18	p.5
りんごの病害虫チョットいい話(4)	p.6
住化アグログループ紹介 日本エコアグロ(株)	p.7
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p.8
今月のお奨め農薬 とうもろこしの病害虫に強い味方!	p.9
農薬登録情報	p.10
今月のご相談から	p.11
病害虫発生情報	p.11
最近の「お・・・美味しい!」	p.12
コラム・そば談義	p.13
編集後記	p.13



「キクイタダキ(ヒタキ科)とサラサドウダン(ツツジ科)」 技術顧問 富樫作

## 農家さん訪問記

### 一宮イーハトーヴォ『理想郷』を目指して!!

岡山名産の果物と言って思い浮かぶのは、「白桃」と「マスカット」ではないでしょうか。今回訪問した岡山市一宮(いちのみや)地区は、その両方の産地として有名です。今回の農家さん訪問では白桃に焦点を当て、JA 岡山一宮選果場果樹部会の部会長である三宅隆さん(50)にお話を伺いました。

### 桃づくりに適した環境と先人の努力!

「桃の一宮」と聞いて、どの地域を連想しますか。実は、山梨県の一宮も、岡山県の一宮も、全国的に有名な桃の産地なのです。互いに遠く離れた土地で、名前だけではなく名産まで同じというところに、不思議な縁が感じられます。

ではなぜ、岡山は桃の一大産地となったのでしょうか。まず、気候や土質が適していることが挙げられます。桃の栽培には、少雨で日照時間が長い気候が向いており、瀬戸内式気候で「晴れの国」と呼ばれる岡山にぴったりです。また、中国山地や四国山脈に守られ、台風の被害が少ない点でも恵まれています。土質では、収穫期に肥料が切れやすい条件のほうが美味しい桃が出来るので、花崗岩質で肥料分が少ない土壌も栽培に向いています。そして忘れてはいけないのが、先人



のたゆまぬ努力です。一宮地区における桃栽培は、明治21年に齊藤喜八によって導入されたのが最初とのことです。約120年の歴史があります。この間、様々な品種が岡山で生み出され、全国へ広がっていきました。特に、白桃の最高級ブランドとして人気の「清水白桃」は一宮地区が発祥の地であり、記念の石碑も建っています(写真左)。



さて、今回訪問した三宅さんの果樹園は、JR岡山駅の北北西に位置し、平野から丘陵地へ移り変わるあたりにありました。移動の車窓からは、橙色の袋がかかった桃の木をあちらこちらで見ることができました。日当たりの良い斜面には、ちょっとした広さの場所でも桃が栽培されており、桃の産地であることを実感しました。

## 異業種から家業の果樹栽培に取り組む！

三宅さんは、桃を約90アール、温室ぶどうを約30アール栽培しています。桃の栽培品種は、清水白桃が6割で、岡山夢白桃、白鳳、白麗、川中島白桃が各1割です。一方、温室ぶどうについては、主にマスカット、コールドマン、紫苑を栽培しています。栽培品種は、商品価値の他に作業面も考慮に入れて決めており、作業が一時期に集中しないよう工夫しています。たとえば、早生の桃はぶどうと作業時期が重なるので、三宅さんは栽培していないそうです。

三宅さんの家族構成は、お母さん、奥さん、4人のお子さん(22歳~12歳；上3人が息子さん、末っ子が娘さん)です。農作業は主に三宅さんと奥さんの二人で行っています。後継ぎについては特に考えておらず、子供たちには「自分の人生、好きなことをやりなさい」と言っているそうです。

三宅さんが就農したのは平成3年の春で、それまではサラリーマン(電気関係)でした。当時、お父さんはぶどうが専門の農家で、お父さんの勧めもあり、桃を栽培することになりました。当時の桃の栽培面積は15アールだったそうです。その後、持っていた水田を果樹園に変えていきました。ぶどうは温室建設の初期投資が高額となるため、桃を増やしました。なお、稲作については、「米は買ったほうがいい」と考えてやめたそうです。




三宅さんの桃園

就農前は実家には住んでおらず、農業も手伝っていなかったため、栽培知識が無い状態からのスタートでした。ぶどうについてはお父さんから学び、桃については、お父さんが親しく付き合っていた人から学びました。その人は岡山県果樹研究会の会長さんで、三宅さんも就農の翌年に入会しました。研究会の活動は現在も続けています。

## 一宮の白桃は市場で最高の評価！


三宅さんが部会長を務める一宮選果場果樹部会は、会員が約440名と大規模な部会です。専業農家の割合は比較的高く、約15%です。果樹部会が対象とする果樹の9割が桃で、部会全体の栽培面積は約100ヘクタールあります。他に「なし」と「かき」を扱っており、

部会のロゴマークである  を付けて出荷するのは、これら3種類だけです。なお、温室ぶどうについては別の専門農協で扱っています。



中央選果場と内部

一宮地区では、「清水白桃」に代表される新品種を開発すると共に、独自の栽培方法を編み出してきました。一宮選果場果樹部会は、この伝統をしっかりと受け継いでおり、部会が出荷する「清水白桃」は、市場で最高の評価を獲得しています。

一宮選果場果樹部会のスローガンは、小山前部長さんが提唱された「めざせ  ! イーハトーヴォ」です。「イーハトーヴォ」は宮沢賢治の造語で、人間だけではなく、全ての生き物が豊かに暮らすことの出来る理想郷のことです。つまり、このスローガンには、「きれいな水と空気を守り、様々な生き物と共存できる農業を目指す」という意味が込められています。三宅さんが部会長になられてからも、このスローガンを引き継ぎ、「環境に優しい農業」を目指しています。そして、消費者には「安全・安心」を届けたいと考えています。

## 虫の生態を勉強しないと減農薬は出来ない！

部会のスローガンを具現化するために行っているのが、減農薬です。ただ、病害については、防除を省略するとほぼ確実に発生するため、削減は困難です。そこで、殺虫剤の削減に取り組んでいます。

主要害虫であるシンクイムシ類やハモグリガなどの防除には、部会全体で交信かく乱剤（コンフューザー）を使用しています。これにより、最長で4月下旬から6月上旬の間、殺虫剤を使わない期間を設けることができ、慣行に比べて殺虫剤の散布回数を4~5回減らすことができます。また、モモノゴマダラノメイガについては、部会員がトラップによる発生調査をエリア全体で行っており、防除適期を見極めて効率的に防除します。この害虫は昨年も発生しましたが、被害は完全に防ぐことができました。最近、最も問題となるのはカメムシ類で、現在は県の注意報・警報をもとに防除を実施していますが、防蟻灯による被害回避の試験を実施中とのことです。また、弊社のダントツ水溶剤について、カメムシ防除の展示試験を実施していただくことになりました。



交信攪乱(コンフューザ)設置

殺虫剤を削減するためには、虫の生態の勉強が欠かせません。現在も日々勉強されているとのことです。

## 生理落下の多い清水白桃は三段階剪定！

さて、ここで、白桃の栽培についてお話を伺いました。重要な作業には、整枝せん定、摘蕾（余分なつぼみの摘み取り）、摘果、袋がけがあります。三宅さんの場合、せん定は弱せん定で、日当たりを重視して行っています。次に、蕾が付くと摘蕾を実施します。これにより、無駄な花を咲かせないことで木の貯蔵養分を有効活用します。摘果は、予備摘果、仕上





一宮の桃園風景

げ摘果、修正摘果の三段階で行います。修正摘果は、生理落果が終了した後に行い、最終的な着果数に調整します。このようにして、大玉で味の良い果実を作るのです。

そして、白桃に仕上げるには袋がけが必須です。特に清水白桃は贈答品（デパートなどの高級店で並んでいる）の用途が主で、味だけでなく、高級感のある外観も重要です。専用の袋をかけ、収穫まで取らないことで日

光を遮断し、白い桃に仕上げます。かつては真っ白にするため、底の閉じた袋をかけていましたが、現在ではごく一部にほんのりと紅が差したものが上品とされるため、底が開いた袋をかけています。品種によって、使用する袋の大きさが異なります。部会での出荷は共撰のため、使用する袋を統一して品質を揃えています。

一番難しいのは、清水白桃の収量確保です。この品種は生理落果が多く、安定的に収量を確保することが課題です。永年の試行錯誤の結果、その技術はようやく確立しましたが、それでも万全ではなく、天候不順などが原因で、収量が大きく低下することがあります。昨年も、県全体の平均で収量が4割も低下してしまいました。

ここで少し、経営の話伺いました。他の品種に比べてはるかに栽培が難しい清水白桃にこだわるのは、ブランドを守る意味があるのはもちろんですが、高い価格が確保できることも大きな理由です。部会での桃の出荷価格は、例年、全ての品種や加工用を含めてもキロ当たり800円前後と高く、清水白桃だけなら1,000円～1,100円になります。清水白桃の場合、10アール当りの平均収量は1.2トン（粗収入約120万円）で、山梨（10アール当り約2トン）などと比べると低いそうです。なお、諸経費は粗収入の3割程度を占めています。

## 魅力ある農業にすることが産地を守ること！

部会では「イーハトーヴォ」のスローガンの下、環境に優しい農業を実践していますが、現時点ではそのことを消費者に十分伝えられていないと感じています。そのため、どのようにPRするかが課題と認識しており、広報担当委員会を立ち上げて、その方法を検討しています。

交信かく乱剤による防除は、慣行防除よりコストがかかるため、生産者にはそれに見合うメリットが必要です。

既に産地としては最高の評価を受けている白桃ですが、「安全・安心」を付加価値として消費者に訴え、更に評価を上げたいと考えています。

日本農業の共通した問題点に後継者不足がありますが、一宮地区でも高齢化が進んでいます。実は、三宅さんは役員の中で最年少とのこと。ただ、この地区ではUターン組が増えているのが希望です。最近、生産量も右肩上がりになってきました。今後、更に人を呼び戻すためには、まず、事業として魅力ある（儲かる）農業を作り上げることが重要で、そのためにも、産地を守る努力を続けていきたいとのことでした。（南、古津）



青木営農指導員とご一緒に

今回のインタビューは、JA岡山一宮支所 営農指導員 青木定彦様のご協力があって実現しました。ありがとうございました。

[目次へ戻る](#)

**やさしい農薬の知識 No.18****絶対安全、100%安全ってあり？！**

1カ月ほど前になりますが、米国産牛肉のBSE(牛海綿状脳症)に関する朝刊の記事を読んで感じたことを紹介します。(全国紙の記事なので、先生の発言が正しく掲載されている前提でこれを書いています)

その記事には某医大の教授のコメントが掲載されていましたが、その内容に驚くとともにがっかりしました。BSEに関連した米国産牛肉の輸入条件(月齢)に関する記事で、「100%安全とは言えぬ 医大教授(生理学)の話・・・。人の健康へのリスクはそれほどでないと判断しても不思議ではないが、どこまでこの実験を人に一般化できるのか。100%安全とは断定できない。・・・」とのコメント。



そもそもこの先生は100%安全と断定できることがあると信じているのでしょうか。専門家としての発言なら、米国産牛肉の輸入条件の緩和について、人の健康に対するリスクの程度を明確にして輸入条件を緩和すべきである、あるいは緩和すべきではない、というコメントを一般読者に発信すべきでしょう。"100%安全とは断定できない"というコメントは専門家でなくたって、私だって、あなただってできます。"絶対に だとは言えない"とか、"100% とは思わない"、" の可能性がある"などの言い方はほとんどどんな場合でも成り立ち、私たち読者に特段有益な情報をもたらすことはなく、何ら意味のない表現です。

私はいつもこう言っています。日常会話ならともかく、"絶対"、"100%"、"可能性"を使う専門家は専門家として信じてはいけません。それに、絶対という単語の使用が許されるのは小学生低学年まで。"明日、絶対一緒に遊ぶから"と言って宿題のために約束が守れなくてもいいレベルなので・・・。

農薬にも絶対の安全はありません。しかし、農薬については現在の科学的水準で各種の安全性に係る試験が実施されています。それら試験結果に基づき農薬の使用方法が決められています。保護具を着用し、使用上の注意事項を守ることによって農薬使用者の安全や環境への負荷を軽減し、また、農薬の使用基準(適用作物、希釈倍率/使用量、使用回数、収穫前日数)を守って農薬を使用することで一般消費者への安全が確保されます。農薬使用者や一般消費者に対する健康影響のリスクを最少にするためには、ラベルに従った適正な農薬の使用がすべての基本です。(原)

[目次へ戻る](#)

## りんごの病害虫チョットいい話 (4)



## 欧米でりんごの黒星病は歴史ある病害！

前回「リンゴ黒星病」について、日本での発生は昭和29年北海道で確認されたのが初めてであり、その後全国に広がったことを述べました。恐らく本病は日本での果樹病害関係者が遭遇した海外からの侵入第1号ではないでしょうか。当時の行政対応として撲滅を目指したものの拡大を食い止めることは出来ず、その後本病の防除に毎年多くの殺菌剤が必要であることを考えると、海外から新しい病害虫が侵入した場合には、経済的に大きなマイナス効果を生み出すことを知らされた貴重な経験でした。

さて、「リンゴ黒星病」は日本では比較的新しい病害ですが、ヨーロッパでは古くから知られた病害であり、発病記録は無いものの17世紀初頭に描かれた果物(りんご)の絵画の中に黒星病の病斑があることを考えても、如何に古くから発生していたかが分かります。

この絵を知ったのは弘前大学で教鞭をとられていた沢村健三先生から頂いた年賀状(写真

参照)であり、イタリアルネサンスからバロックへ時代が替わったころ、ほの暗い画面に差し込む一条の光で深遠な心理表現をすることで知られるカラヴァッジオ(1571~1610)の“キリストと2人の弟子”(1601)の絵の籠盛のりんごにそれらしい病斑が描かれています。



果物籠のりんごを拡大すると黒星病が見られる

このように欧米では古い歴史のある病害のため発生生態や防除の研究が進んでおり研究論文も数多くあるものの、当

然ながら日本での生態が分からず、発生県が共同で試験研究に取り組みました。その結果発生源が当時知られていた越冬罹病葉に作られる子のう胞子によるもの他に、芽鱗片内での越冬が確認されるなど生態解明が進み、開花前の早い時期から防除が必要であることがわかりました。

本州での発生当初治療効果のある殺菌剤が無く、発芽間もなくからジラム・チウラム剤、ダイセン類、キャプタン剤、TPN剤などが7~10日間隔で用いられました。

間もなくして治療効果の高いペノミルやチオファネートメチルが出現し防除がだいぶ楽になりましたが、5~6年後突如としてこれらの薬剤が効かなくなりました。

耐性菌の発生です。当時果樹病害での耐性菌研究は *Alternaria* 菌に対するポリオキシシン剤が初めてで研究歴が浅く、検定法の開発を含め耐性菌対策関連の業務が多かったことが思い出されます。今回はこれも発病歴が比較的新しい「斑点落葉病」を主体に述べたいと思います。(技術顧問 水野)

[目次へ戻る](#)



住化アグログループ紹介 日本エコアグロ(株)

# IPM を軸とした病害虫管理

今回は、本誌第 24 号でご紹介しました診断と土作りに続く作業項目として、病害虫管理技術について、産地や地域毎の栽培環境に対応した実際例をご紹介します。

IPM という考え方については、本誌の「IPM の現状と今後」というシリーズで連載しましたのでご承知かと思いますが、要するに、従来の化学農薬主体の防除方法だけでなく、他の防除技術も組み合わせて総合的に病害虫や雑草を防除することを意味します。

シリーズの中では県における事例や今後の考え方などをご紹介しますが、当社の場合、原則として産地や地域単位に IPM を主体とした防除モデルを提案し、産地や地域の方々と相談しながら試験案を策定し、現地試験を行って実証していきます。そして、現地試験による実証を通じて皆様に納得してもらえる IPM 技術を構築していきたいと考えております。

当社で、IPM モデル構築に取り組んでいる主要な作物は施設栽培のトマト、ナス、ピーマン、イチゴなどです。これらの作物は地域や作型によって加害する病害虫の種類、発生量が異なることが多いため、モデルも多種多様になっています。

以上のような状況下で、IPM 技術確立のために次のことに重点的に取り組んでいます。

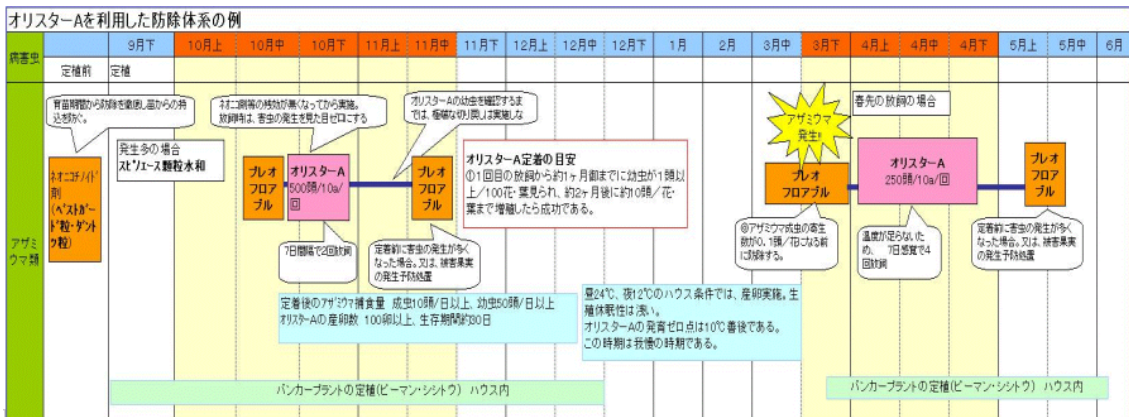
## 1. 問題改善あるいは解決への取組み

トマト栽培でのコナジラミ類に、粘着くん液剤 + 天敵微生物を組合せた防除モデルの提案



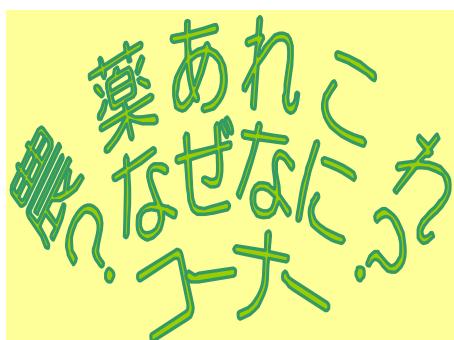
## 2. 省力性と環境保全への取組み

天敵の「オリスター-A」を利用したスリップスの省力防除によるサラダナス特別栽培の実現



上記例だけでなく、今後も産地や地域の実情に適応した防除モデルの提案を行い、特殊肥料、天敵類、物理的防除資材等を組み込んで、総合的な IPM モデルの確立に取り組んで参ります。  
以上

[目次へ戻る](#)



## 農薬の小売価格は どこに尋ねればいいのか?

### ご質問

こんにちは。私は趣味で多少広い面積で家庭菜園をしている者です。キャベツを育てていますが、毎年アオムシやヨトウムシの被害に困っています。先日、新聞広告に載っていた「プレオフロアブル」という薬剤がこれらの虫に効くということで、購入してみたいと思いました。ついでに、小売価格を知りたいのですが、広告に載っていたこちら(メーカー問合せ先)へ質問するの良かったでしょうか?

### お答え

農薬を買おうと思ったとき、だいたいの価格が分からないと不便ですね。ですから、値段を知りたいときに、メーカーに聞くとお考えになるのも、もっともです。

ですが、農薬メーカーでは通常、「メーカー希望小売価格」のようなものは設定していません。最終的な小売価格は、JAさんや販売店さんがそれぞれ独自の判断で決めることになります。当然、お店によって値段も多少変わってくるはずです。

ですから、実際の小売価格をお知りになりたい時には、メーカーではなく、実際に商品を販売している農協や販売店さんにお問い合わせください。

(佐伯、南)



[目次へ戻る](#)



## 今月のお奨め農薬

## とうもろこしの病害虫に強い味方！

## リゾレックス水和剤とパダン粒剤4

とうもろこしのご相談が急に多くなってきましたので、紋枯病防除の「リゾレックス水和剤」とアワノメイガ防除の「パダン粒剤4」を紹介いたします。

未成熟とうもろこしの紋枯病の防除に「リゾレックス水和剤」が登録認可されました。

とうもろこしの紋枯病は稲の紋枯病菌と同じ糸状菌の一種です。紋枯病の初発生は、前年のとうもろこしの病斑に出来た菌核が越冬して、これが第一感染源になります。地際部から発病して上位葉鞘に進展します。葉鞘に大型の病斑ができ、水浸状（暗色から、その後灰白色）になります。病斑が拡大すると葉身も枯死し、上位葉及び雌穂まで拡大することがあります。

「リゾレックス水和剤」は、リゾクトニア菌による苗立枯病をはじめ白絹病等の土壌病害に高い効果があります。防除方法は、1500倍に稀釈して、収穫前14日前までに発生初期から2回散布します。



アワノメイガ喰入痕



アワノメイガ幼虫

同じく、ご相談が多いのはトウモロコシのアワノメイガの防除方法です。「パダン粒剤4」の使用時期と使用方法をご紹介します。

アワノメイガの防除には、2回散布する必要があります。それは、アワノメイガの成虫が卵を雄花に産み付け、卵からふ化した幼虫が雌穂（実）に移動して喰入し加害するからです。1回目の防除は幼虫のふ化時期（産卵7～10日後）、2回目の防除は、幼虫の雌穂への侵入時期です。

「パダン粒剤4」による防除の第1回目の散布適期は、雄穂の抽出前です。パダン粒剤4を株の上から手振りや散粒機で散布すると雄穂の出る所に入り、抽出してきた雄穂に吸収移行して、ふ化幼虫を防除できます。第2回目の散布適期は雌穂が出始めた時です。この時期に散布すると雌穂に吸収移行し、侵入してくる幼虫を防除します。虫の生活史に合わせた防除方法です。

（富樫）

[目次へ戻る](#)

**農薬登録情報**

&lt; 5月23日、5月31日の主な適用拡大内容です &gt;

**適用拡大**

殺虫剤の作物追加がたくさんありました

種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名/ 使用目的	使用量ほか	
殺 虫 剤	ダントツ水溶剤	作物追加	豆類 (種実、 ただし、 だいず、 らっかせ いを除く)	アブラムシ類	4000倍 100～300L/10a	収穫7日前まで 3回以内 散布
			えだまめ	アブラムシ類	2000～4000倍 150～300L/10a	収穫3日前まで 3回以内 散布
				カメムシ類	2000倍 150～300L/10a	
			ブロッコリー	アブラムシ類	2000倍 150～300L/10a	収穫3日前まで 2回以内 散布
			にら	ネギアザミウマ	2000倍 150～300L/10a	収穫3日前まで 3回以内 散布
			非結球 レタス	アブラムシ類	2000～4000倍 150～300L/10a	収穫3日前まで 2回以内 散布
				ナモグリバエ	2000倍 150～300L/10a	
			アスパラガス	アブラムシ類 ネギアザミウマ	2000～4000倍 150～300L/10a	収穫前日まで 3回以内 散布
			ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類	2000～4000倍 200～700L/10a	収穫3日前まで 3回以内 散布
				コガネムシ類	2000倍 200～700L/10a	
	あんず	アブラムシ類	4000倍 200～700L/10a	収穫3日前まで 3回以内 散布		
	すもも	アブラムシ類	4000倍 200～700L/10a	収穫3日前まで 3回以内 散布		
ダントツ粒剤	作物追加	いちご	アブラムシ類	1g/株	定植時1回 植穴処理土壌混和	
ハクサップ 水和剤	作物追加	リーフレタス	アブラムシ類	1000～2000倍	収穫14日前 2回以内 散布	
			オオタバコガ	1000倍		

(佐伯・南)

[目次へ戻る](#)

## 今月のご相談から

**Q** 昨年も柿の幼果がヘタムシに食われて、ほとんど落果しました。防除方法と時期を教えてください。

**A** カキノヘタムシガによる被害です。

年2回発生しますので発生生態にあわせた防除が必要です。越冬幼虫は4月下旬に蛹になり、5月上旬に第1回目の成虫が現れます。この成虫は柿の芽や枝などに産卵しますが、主に芽の周辺が多いようです。産卵後1週間ぐらいでふ化し、1~2令期は芽の付近で過ごします。その後、花梗部やヘタ部から果実に喰入していきます。西日本では7月中~下旬に、中部地域では7月下~8月上旬に成虫になり、すぐに産卵を開始します。1匹の幼虫は数個の果実を食害します。発生が多い場合は収穫皆無になることもあります。

防除適期は果実喰入前の1~2令幼虫の発生時期です。西日本では6月中~下旬と7月下~8月上旬、中部地域では6月中~下旬と8月上~中旬です。多発の場合は更に1週間後の散布が必要です。薬剤は、「パダン SG 水溶剤」の1500倍や、「スミチオン乳剤」1000倍、「スミチオン水和剤40」の800~1200倍があります。（富樫）

[目次へ戻る](#)



カキノヘタムシガの幼虫（上）と成虫（下）

## 病害虫発生情報

5月中旬~6月初めに各県から出された病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

**[注意報\(5月18日\)愛媛県・キウイフルーツ、うめ、もも、なし、かき他/カメムシ類\(チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ・クサギカメムシ\)](#)**

弊社剤：アグロスリン水和剤、アディオン乳剤、パーマチオン水和剤、スミチオン水和剤40、スミチオン乳剤、ダントツ水溶剤、サイアノックス水和剤などが効果あります。適用作物と適用害虫を確認してからご使用ください。

**[注意報\(5月25日\)長崎県・茶/チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ](#)**

弊社剤：アグロスリン水和剤、アディオン乳剤、スミロディー乳剤、ダントツ水溶剤、パダンSG水溶剤、ピルク水和剤、ベストガード水溶剤、ランネット45DF、ロディー乳剤をご使用ください。

**[注意報\(5月29日\)秋田県/キャベツ、コナガ](#)**

弊社剤：エスマルクDF、ダイポール水和剤、フローバックDF、アグロスリン水和剤、アディオン乳剤、サイアノックス乳剤、サイアノックス粉剤、ダイアジノン水和剤34、ダイアジノン乳剤40、ダントツ粒剤、ダントツ粒剤、DDVP乳剤、DDVP乳剤75、ハクサップ水和剤、



チャバネカメムシ



チャノキイロアザミウマ



パダンSG水溶剤、パダントレボン粉剤DL、プレオフロアブル、ベジホン乳剤、ランネート45DFをご使用ください。

**注意報(5月31日)福島県/モモ、せん孔細菌病**

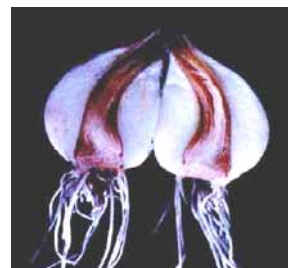
弊社剤：バリダシン液剤5をご使用ください。

**6・6/注意報/青森県/にんにく/春腐病**

弊社剤：ナレート水和剤、バリダシン液剤5をご使用ください。

**6・8/注意報/岩手県/キャベツ/コナガ**

弊社剤：アグロスリン水和剤、アディオン乳剤、エスマルクDF、サイアノックス乳剤、サイアノックス粉剤、ゼンターリ顆粒水和剤、ダイアジノン水和剤34、ダイアジノン乳剤40、ダイポール水和剤、ダントツ粒剤、DDVP乳剤、DDVP乳剤75、ハクサップ水和剤、パダンSG水溶剤、パダントレボン粉剤DL、プレオフロアブル、フローバックDF、ベジホン乳剤、ランネート45DFをご使用ください。 (鈴木)



ニンニク春腐病

[目次へ戻る](#)

## 最近の「お・・美味しい!」

弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします  
最近の「お・・美味しい!」  
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、  
毎月「これぞ!」というものを紹介します。  
どうぞお楽しみに♪♪

### 名古屋の喫茶店で



謎の物体X・・・(笑)

### チャレンジメニュー?に挑戦



写真写りが悪くて申し訳ないのですがこの物体、一体なんだと思いますか?

正解は・・・はい!「小倉トースト」でした。まるで「あんかけ」のように甘~い小倉あんが厚

切りトーストを覆い隠すほどにかけているその様は、堂々たる風貌で見事というほかありません(笑)。東京ではあんまり見かけませんが、名古屋ではごく「あたりまえ?」のメニューだそうです。一見ミスマッチのような組み合わせですが、焼きたてトーストの香ばしさと、バターの塩加減、そして小倉あんの控えめな甘さが絶妙で、実に美味しいのです。(考えてみれば、あんパンがあるくらいなので、そもそもパンと小倉は相性が良いのでしょうか)

朝食ということでしたいたのですが、この一皿食べれば、もうお腹もいっぱい!(最後は少々胸焼けを起こす始末)。これにコーヒーが付いて350円ですから、いや~安い!聞くとところによると、名古屋には小倉トーストの他にも、「八丁味噌トースト」や「あんかけスパゲッティ」そして「コーヒーぜんざい」なんてものもあるらしいです。うーむ。一度挑戦してみたいですね(笑)。 (佐伯)

[目次へ戻る](#)

### コラム・そば談義

そば打ち段位認定試験（\*全麵協）の初段に挑戦した。

当日は5時に起床し軽いランニングで体をほぐし、そのあと時間厳守でそばを打った。理由は40分以内に終えなければ失格となる。そんなことから、自宅を出る前に一汗かいたのである。南青山にある検定会場には余裕をもって到着したが、すでに参加者（殆どが中高年）の熱気で包まれている。

さて、今回の段位認定試験（初段～三段）の受験者は「\*\*鶺鴒の会」のメンバー含め総勢52人である。段位が上がるにつれてそば粉の量が増え、反対につなぎ（小麦粉）の量が減っていく。最高位の五段ともなると、全量（1.5kg）そば粉で切り幅も95%以上揃い、そばを打つ姿勢が堂々として落ち着いていなければならない（威風堂々）。また、打ち終えたあと周囲に粉などの汚れがなく、道具の始末は完璧を要求される。

さあ、いよいよ本番である。私は1組目でゼッケン2番である。そば打ちも「武士道」ではないが「そば道」と云われるくらい作法に厳しく、礼に始まり礼に終わるのである。まず、一礼して手（両腕）を洗う。そして、捏ね鉢に粉を振り、そこに水を注いで水回しである。この加水が一番重要なポイントである。そして、捏ねに移ると徐々に汗が出てくる。汗一滴落すごとに1点減点だ。2滴ほど落すが幸い試験官は気付いていない。そして、手と麺棒で生地を伸ばし出来るだけ正円にする。いつもは丸くならないが練習の成果が上手くいく。そして、角出しへと移る。出来るだけ薄く均一な正方形になるよう麺棒を転がして伸ばしていく。少し生地は厚いが何とかうまくいく。そして、伸ばした生地に打ち粉をタププリ降りかけて折りたたむ。普段2枚に重ねるのだが、今回は3枚に重ねたために上手くいかない。徐々に焦ってくる。次に切りへと進む。1.2～1.3mm幅に切るのだが、この作業は今でも苦手だ。リズムが悪いのか、太くなったり細くなったりして揃わない。そんな状況の中、突然審判委員が話し掛けてきた。全く想定外である。そのため余計に焦り、切り幅が不揃いになり時間が一気になくなってゆく。それでも何とか切り終え、麺台の切りくずと打ち粉を篩にかけて二つに分ける。切り屑が多いほど、ロスが多いということで減点だ（非常に多い!?）。最後に麺台と道具を清掃して大きな声で「2番終了しました」と審判委員に向かってコールする。何とか全工程を制限時間で終え、やれやれと思う。同時にかなり危ういとも感じる。合否の発表まで、二段・三段位の実技を観戦？し、これは非常に参考になる。発表は4時半頃になったが、何とか合格した。長かった一日が終わりホットする。

最後に審査長から「上手な人はリズムがある。そして、心に余裕が感じられる」と総評があった。ところで、我がお客様相談室も日ごろ受け答えにリズムがあるのだろうか？心に余裕があるだろうか？そば打ちではないが、それらが備わってくればお客様も何となく爽やかな気持ちになり、より安心して頂けるかと思うのだが・・・（古津）

\* 全麵協：全国麵類文化地域間交流推進協議会

\*\*鶺鴒の会：「上野藪蕎麦」店主の鶺鴒氏らを顧問に迎えた素人江戸流手打ち蕎麦研究会

**編集後記** そろそろ梅雨の季節になりました。

西日本では雨が少なく、田植に苦勞されているそうです。また、今年の冬は雪が少なく全国的に水不足が心配です。一年ぶりに田植のため香川県へ帰郷します。実家のある中讃地区は弘法大師がつくった「満濃の池」があります。そのおかげで未だかつて水不足になったことがないそうです。お大師さん本当にありがとう。



[目次へ戻る](#)